

学科学年	M 2	科目分類	地球環境学概論 Introduction to Earth Environmental Science	講義 必修	22後期 1単位	学習教育目標 1	担当	野澤正信 勝山智男 小林美学 大久保清美 NOZAWA, Masanobu KATSUYAMA, Tomoo KOBAYASHI, Migaku OKUBO, Kiyomi
概要	<p>地球環境問題は21世紀における最大課題と言ってよいだろう。現代科学技術はこの課題と密接不可分の関係にある。言うまでもなく、先進諸国の近代化は科学技術に拠るところが極めて大きかった。しかし、科学技術の発展を無批判に容認できない事態も次々と発生してきた。種々の公害や温暖化などのいわゆる地球環境問題である。すなわち、科学技術の発展と飽くなき人間の欲求とが結びついて、20世紀後半以降における人間の活動量の飛躍的増大が、地球環境の許容限界を超え始めるに至っている。</p> <p>本授業においては現代のこのような状況を踏まえ、様々な環境汚染問題の現象及び原因を認識し、またその問題解決のための方途を探求することによって、次代の科学技術を担う学生諸君の、科学技術者としての、また市民としての環境倫理の涵養に努めたい。合言葉は、"Think globally, act locally"である。なお授業形態は、4名の教員によるオムニバス形式とする。</p>							
科目目標 (到達目標)	学生が、下記の授業計画に示すテーマ毎にその現状及び原因を認識・理解し、解決策を模索することにより、 環境倫理 を身に付けることを目標とする。							
教科書 器材等	必要に応じ、適宜プリント等を配布する。							
評価の基準と 方法	中間試験及び期末試験の成績により評価する。60点以上を合格とする。							
関連科目	物理、化学、生物 他							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		ガイダンス(野澤)*選択制教室3・4にてD2と合同授業						
第2回		エネルギー問題(1):エネルギー消費の現状と地球環境(野澤)						
第3回		エネルギー問題(2):原子力エネルギーと環境問題(野澤)						
第4回		エネルギー問題(3):新エネルギー技術と循環型社会(野澤)						
第5回		オゾン層破壊(小林)						
第6回		酸性雨(小林)						
第7回		ダイオキシン問題(小林)						
第8回	×	中間試験 *中間試験期間を利用						
第9回		環境汚染の歴史(大久保)						
第10回		ドイツの環境政策(大久保)						
第11回		廃棄物問題と循環型社会(大久保)						
第12回		地球温暖化のメカニズム:地球のエネルギー収支と温室効果・温暖化がもたらす影響(勝山)						
第13回		地球の歴史と生態系:地球の歴史・地球の生物環境と非生物環境・エネルギーと物質の循環(勝山)						
第14回		生物多様性:生態系と生物の多様性・3つのレベルの多様性・生物多様性国家戦略(勝山)						
第15回	×	期末試験(勝山)						
第16回		まとめ(大久保)*選択制教室3・4にてD2と合同授業						
オフィス アワー	授業日の放課後							
授業アンケート への対応	概ね高い評価を得ているが、さらに魅力的な授業を目指す。							
更新履歴	100318新規							

